



## Creating Soft Can Be Hard

香港の研究チームなどが開発中  
**体内で動くスライム型ロボットがキモすごい!**

ロボットといえば、人間にはまねのできないスピードと緻密さで単調な作業を繰り返したり、大きな力を使って物を持ち上げたり運んだりするというイメージがあるかもしれない。しかし、香港などで研究・開発が進められている「スライム型ロボット」は、従来のロボットにはない「しなやかさ」が特徴だという。近未来型ロボットの研究者に、研究の目的とその成果について話を聞いた。

レイチェル・クレイン記者の  
 発音と話し方の特徴



アメリカ英語

速さ: ★★★ 発音: ★★★  
 語彙: ★★★ 総合: ★★★  
 [★聞き取りやすい ↔ ★★★ 難しい]

クレイン記者の英語は特定のなまりや癖がない“スタンダード”なアメリカ英語。注意したい発音はsiliconeとlimb。前者はシリコンだが、最後のeがない場合は元素のシリコン(ケイ素)を指す。limbはbを発音しない。



### キーワード

ニュースを聴く前にチェックしておこう

36

- substance [sʌbstəns] 物質
- agile [ædʒaɪl] 機敏な、敏しょうな、身軽な
- unveil [ʌnveɪl] (新製品などを)初公開する、発表する
- convert A into B [kən'veɪ:rt] AをBに変える、変換する
- mimic [mɪmɪk] ~をまねる、~によく似る
- limb [lɪm] 手足(の1本)、肢
- augment [ɔ:gmeɪnt] ~を増大させる、増強させる、拡張する
- ingest [ɪndʒɛst] ~を摂取する、飲み込む
- compliance [kəmplaɪəns] 弾性、柔軟性

37 41 スライムが技術革新の目玉に

Building the next big thing in tech can take time.//

“Sometimes, innovation should not be too fast.”// (Li Zhang, professor of engineering, The Chinese University of Hong Kong)

In this case,/ it’s moving at a snail’s pace.// Meet Li Zhang,/ engineer, professor, and now, maker of sludge-like goo.//

“It behaves sometimes like a liquid, sometimes like a solid.”// (Li Zhang)

Inspired by the cheap slime toy that children play with all over the world,/ Zhang’s team first created the substance in 2021/ by mixing a simple polymer with borax.//



スライムは従来、子どもが自分の手に絡ませて感触を楽しむただのおもちゃだった

**hard:**  
《タイトル》難しい ▶soft に対する hard (硬い) の意味もかけている。

**the next big thing:**  
次の目玉

**tech:**  
= technology 《話》科学技術

**take time:**  
時間がかかる

**innovation:**  
革新、新機軸を打ち出すこと

**engineering:**  
工学

**at a snail’s pace:**  
非常にゆっくり

**Meet...:**  
こちらは…です

**engineer:**  
工学者、技術者

**sludge-like:**  
泥・ヘドロのような

**goo:**  
粘性があり泥のような物質

**behave:**  
〈物質などが〉作用する、反応を示す

**liquid:**  
液体

**solid:**  
固体

**inspire:**  
～にひらめき・着想を与える

**cheap:**  
安価な、安い

**slime:**  
スライム ▶本来は軟泥やヘドロなど、粘りのある液状のものを指すが、ここではゲル状の玩具のこと。

**toy:**  
おもちゃ、玩具

**substance:**  
物質

**mix A with B:**  
AをBと混ぜる

**simple polymer:**  
単独重合体、単純なポリマー

**borax:**  
ホウ砂

ニュース1では、スラッシュリーディングおよびスラッシュリスニングの参考として、情報・意味のまとまりごとにスラッシュ(/)を入れています

科学技術の次なる目玉の構築には、時間がかかることもあります。//

「時として、技術革新は急ぎ過ぎてはいけません」// (リ・ジャン 香港中文大学工学教授)

この場合は/ カタツムリ並みにゆっくり進んでいます。// こちらはリ・ジャン氏です/ 彼は技術者で教授で、そして今は泥のようなベトベトした物質を作っています。//

「その振る舞いは時には液体のようで/ 時には固体のようです」// (リ・ジャン)

安価なおもちゃのスライムからヒントを得て/ 世界中で子どもたちが遊んでいる(おもちゃのスライムから)/ ジャン氏のチームは、2021年に初めてこの物質を作り出しました/ 単純なポリマーとホウ砂を混ぜ合わせることによって。//

### 理解のポイント

▶▶ ①のcanは「～することもある」という意味。

▶▶ ②のliquidは通常不可算名詞だが、この場合は「ある種の」液体、つまりa liquid substance (ある液体状物質・物体) の意味で使っているので、可算名詞として扱われ、不定冠詞aがついている。